

完了形容詞とその「意味上の主語」

前川 貴史

1. はじめに

よく知られているように、英語には2種類の受身形がある。まず一つめは(1)のような「動詞的受身」である。(1)は料理人がマッシュルームをスライスするという「行為」を記述している(以下、例文中の太字は筆者による)。

(1) The mushrooms were **sliced** by the cook.

(Levin 1993:86)

二つめは、(2)のような「形容詞的受身」である。これは「行為」ではなく、行為の「結果状態」を表す形式である。(2)は羽毛が枕につめこまれた結果状態を記述している。

(2) The feathers remained **stuffed** in the pillow.

(Levin 1993:87)

形容詞的受身は文字通り形容詞的であるため、(3)の各例のように名詞の前に置く用法がある。

(3) **broken glass, unsent letters, cut flowers**

(Levin 1993:87)

本稿は、(3)のような形容詞的受身の名詞前置用法について、これまで注目されてこなかった事実を指摘したいと思う。

2. 形容詞的受身の名詞前置用法

(3)のような過去分詞は受身の意味をもつと、学校でも教えられる。例えば学習参考書である中邑(他)(2017:230)では、(4)のような過去分詞は「『~された』『~されている』という『受動』の意味を表す」と述べられている。

(4) the broken window (中邑(他)2017:230)

この場合、(5)との対応から「修飾される名詞は分詞の意味上の主語である」と説明される。

(5) the window which was broken

(中邑(他)2017:230)

つまり、(4)では window が broken の意味上の主語ということになる。

しかし、以下のような自動詞の過去分詞は、自動詞であるがゆえに当然受動化はできない。中邑(他)(2017:231)では、(6)のような自動詞の過去分詞は「『完了』の意味を表す」と説明される。

(6) a. a frozen lake 凍った湖

b. a retired doctor 引退した医者

(中邑(他)2017:231)

このように、学校文法では(4)と(6)は異なる意味をもつ別個の形式として扱われるのに対し、言語学的研究においては、両者を統一的に説明する試みがなされてきた(Levin & Rappaport 1986, 影山 1996, など)。影山(1996)は、(4)や(6)の過去分詞は「受身」ではなく、どちらも「結果状態」を表す完了形容詞であると述べている。この影山(1996)のアプローチでは、他動詞に基づくものと自動詞に基づくものを統一的に捉えることができる。本稿では影山(1996)に従い、名詞前置用法の過去分詞を完了形容詞と考えることにする。

3. 完了形容詞の意味上の主語

ここで、完了形容詞が用いられた以下のような名詞句に注目したい。

(7) his edited book

この(7)では、(4)や(6)と同様に名詞の前に完了形容詞が位置している。しかし、その前には冠詞ではなく、所有格代名詞が存在している。本稿では、(7)のような所有格(Possessive)+完了形容詞(Perfective Adjective)+名詞(Noun)の形式をもつ名詞句を、それぞれの用語の英語名の頭文字をとって便宜的に「PPN構造」と呼ぶことにする。

ネイティブスピーカーによると、(7)のPPN構造の意味はあいまいで、少なくとも以下のような2通りの解釈がある。

(8) 彼が所有する、他人が編集した本

(9) 彼が編集した本

まず(8)の解釈では、所有格代名詞 **his** は **book** の所有者として機能している。一方(9)の解釈では、所有格代名詞は完了形容詞が表す結果状態を引き起こす行為者の役割を担っていると言える。つまり(9)の解釈においては、**edited** の意味上の主語は **his** であると考えるべきであろう。**edited** は受身の過去分詞ではなく、影山(1996)に従って完了形容詞とするならば、**book** を意味上の主語に持つ受身形との関連は考える必要がない。

(7)の PPN 構造がもつ(8)と(9)の2通りの解釈のうち、(8)の解釈では、所有格は主要部名詞の所有者であり、完了形容詞とは直接は関係しない。これは例えば **their beautiful house** において、所有格代名詞 **their** は **house** にかかり、形容詞 **beautiful** とは直接関係しないのと同じであり、なんら特別なことはない一般的な表現であると言える。

しかし(9)の解釈においては、所有格と完了形容詞の間には(8)の解釈にはない主語・述語の関係が成り立っている。(8)の解釈を簡単に図示すると以下のようになる。



つまり、**his edited** が主語・述語関係によって意味的なまとまりを作り、そのまとまりが **book** を修飾しているのである。

以下では(9)のように所有格が完了形容詞の意味上の主語になっている PPN 構造が用いられたいくつかの実例を観察してみよう。

- (10) a. (…) many in the business shared **Phil's stated opinion** that Klein was “not a very good cat.” (*He's a Rebel*, p.251)
- b. I could hear that **his finished products** were wonderful.
(*The Beach Boys' Pet Sounds*, p.57)
- c. (…) he dashed into the studio and began answering each of **Ringo's sung lines** in a silly voice (…).

(*Here, There and Everywhere*, p.118)

実例(10) aは、60年代に活躍した音楽プロデューサーの Phil Spector が Klein という人物のことを “not a very good cat” と言ったという事実に関して述べた文である。所有格 **Phil's** は完了形容詞 **stated** の意味上の主語として、**stated** が表す結果状態を引き起こす行為を行ったものとして解釈される。

(10) bの例は、ロックバンド The Beach Boys のリーダーでありプロデューサーを担当する Brian Wilson の能力について、あるミュージシャンが述べた言葉の一部である。このミュージシャンは Brian が完成させた作品を聞いて、それがすばらしいものであるとわかったと言っている。所有格代名詞 **his** は Brian を指し、それが完了形容詞 **finished** の意味上の主語になっている。

(10) cは、ロックバンド The Beatles のレコーディングで Ringo が歌った歌詞に対して掛け合いのフレーズを歌いはじめた John Lennon の様子を記述している。ここでも、所有格名詞 **Ringo's** が完了形容詞 **sung** の意味上の主語になっている。

4. おわりに

(7)の **his edited book** の意味を学生に聞いてみると、**edited** の部分はやはり「編集された」のように受身として解釈するようである。しかし本稿の議論が正しいならば、所有格 **his** が **edited** の主語として解釈できる場合には、(7)は「彼が編集した本」という日本語に対応すると考えるのが妥当である。

参考文献

- 影山太郎. 1996. 『動詞意味論』東京：くろしお出版。
- Levin, B. 1993. *English Verb Classes and Alternations: A Preliminary Investigation*. Chicago: University of Chicago Press.
- Levin, B. & Rappaport, M. 1986. 'The Formation of Adjectival Passives'. *Linguistic Inquiry* 17: 623-661.
- 中邑光男・山岡憲史・柏野健次. 2017. 『ジーニアス総合英語』東京：大修館書店。

データ出典

- Abbott, K. 2001. *The Beach Boys' Pet Sounds: The Greatest Album of the Twentieth Century*. London: Helter Skelter Publishing.
- Emerick, Geoff & Massey, H. 2006. *Here, There and Everywhere: My Life Recording the Music of the Beatles*. New York: Gotham Books.
- Ribowsky, M. 2006. *He's a Rebel: Phil Spector: Rock & Roll's Legendary Producer*. Cambridge, MA: Da Capo Press.